

日本文化教程

韩维柱

武慧敏

闫金钟 / 编著

南开大学出版社

ぶんか



H369.4/146

2008

日本文化教程

韩维柱 武慧敏 闫金钟 编著

南开大学出版社

天津

图书在版编目(CIP)数据

日本文化教程 / 韩维柱, 武慧敏, 闫金钟编著. —天津:
南开大学出版社, 2008. 5

ISBN 978-7-310-02908-2

I. 日… II. ①韩…②武…③闫… III. ①日语—高等学校—教材②文化史—日本—高等学校—教材
IV. H36 K313.03

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2008)第 054389 号

版权所有 侵权必究

南开大学出版社出版发行

出版人: 肖占鹏

地址: 天津市南开区卫津路 94 号 邮政编码: 300071

营销部电话: (022)23508339 23500755

营销部传真: (022)23508542 邮购部电话: (022)23502200

*

天津市蓟县宏图印务有限公司印刷

全国各地新华书店经销

*

2008 年 5 月第 1 版 2008 年 5 月第 1 次印刷

880×1230 毫米 32 开本 10.625 印张 302 千字

定价: 18.00 元

如遇图书印装质量问题, 请与本社营销部联系调换, 电话: (022)23507125

前 言

中国和日本是一衣带水的友好邻邦，两国间有着较深的历史文化渊源。自 1972 年中日联合声明发表以来，中日两国在各个领域的交流与合作不断发展，学习日语的人数不断上升，人们要求了解日本不仅仅局限在政治、经济、文化等领域，而且要求包括日本习惯、风俗等在内的全面了解，目前全国很多高校开设了有关日本风俗与文化的课程。为适应这一要求我们编写了本教材。

本教材由十一章及单词索引部分构成，各章有不同的学习题目及“意識化”“質問に”等，小题目分为“読む前に”“本文”“言葉と表現”等三部分。“読む前に”为阅读文章时应注意的地方；在“言葉と表現”中，针对文章中出现的个别单词和语法现象加以解释，并附有例句；“意識化”为填空练习，加深文章的掌握和理解。“質問に”对本章应该掌握的问题从各个角度进行提问，考核风俗文化的掌握程度。日本的风俗与文化内容涉及面较广，词汇乖僻难懂，因此在文章的选择方面，力图搜集易懂的、词汇语法相对简单的文章，而且对大多数单词都标注了假名，以适应初学日语者阅读和理解文章的要求。通过本教材的学习，学生不仅可以初步了解日本的风俗与文化，而且在日语语言能力方面也会有较大的提高。

在本书编写过程中得到了国内外诸多院校及各方面人士的大力协助，在此谨向各位表示诚挚的谢意。由于水平有限和时间匆忙，本书的编写可能会出现错误，敬请广大读者批评指正。

编者

2007 年 10 月

目 次

第一章 祝日・休日 / 1

- 一 元日 / 2
- 二 成人の日 / 5
- 三 建国記念の日 / 12
- 四 みどりの日 / 15
- 五 こどもの日 / 18
- 六 勤労感謝の日 / 21
- 七 天皇誕生日 / 25
 - 意識化 / 28
 - 質問に / 31

第二章 年中行事 / 32

- 一 正月 / 36
- 二 鏡開き / 42
- 三 雛祭り / 46
- 四 ゴールデンウィーク / 52
- 五 盆 / 56
- 六 クリスマス / 62
- 七 大晦日 / 68
 - 意識化 / 71
 - 質問に / 74

第三章 雑節・祭 / 76

- 一 節分 / 78
- 二 土用 / 82

- 三 彼岸 / 86
- 四 社日 / 90
- 五 入梅 / 93
- 六 祇園祭 / 96
 - 意識化 / 101
 - 質問に / 103

第四章 衣 / 105

- 一 振袖 / 108
- 二 留袖 / 113
- 三 訪問着 / 117
- 四 羽織 / 121
- 五 浴衣 / 126
- 六 袴 / 130
 - 意識化 / 133
 - 質問に / 135

第五章 食 / 136

- 一 餅 / 137
- 二 寿司 / 142
- 三 刺身 / 146
- 四 すき焼き / 149
- 五 おにぎり / 154
- 六 懷石 / 158
- 七 おせち / 163
 - 意識化 / 167
 - 質問に / 169

第六章 住 / 171

- 一 襖 / 172
- 二 障子 / 176

三 疊 / 179

四 火鉢 / 182

五 炬燵 / 185

意識化 / 188

質問に / 189

第七章 通過儀礼 / 191

一 お七夜 / 192

二 お宮参り / 195

三 初節句 / 197

四 七五三 / 199

五 結婚 / 203

六 厄年 / 206

七 長寿の祝い / 209

八 葬儀 / 213

意識化 / 217

質問に / 220

第八章 習慣 / 221

一 挨拶 / 223

二 お辞儀と握手 / 226

三 お中元とお歳暮 / 229

四 年賀状と暑中見舞い / 234

五 風呂 / 238

意識化 / 244

質問に / 246

第九章 諸芸・武道 / 247

一 茶道 / 248

二 華道 / 253

三 相撲 / 257

- 四 空手 / 260
- 意識化 / 263
- 質問に / 265

第十章 演劇・舞踊・寄席芸 / 267

- 一 能 / 268
- 二 狂言 / 273
- 三 歌舞伎 / 275
- 四 文楽 / 279
- 五 上方舞 / 284
- 六 日本舞踊 / 286
- 七 太神楽 / 289
- 八 落語 / 291
- 意識化 / 297
- 質問に / 300

第十一章 浮世絵・和歌 / 302

- 一 浮世絵 / 302
- 二 和歌・短歌 / 308
- 三 俳句 / 311
- 四 川柳 / 314
- 意識化 / 316
- 質問に / 318

索引 / 319

第一章 祝日・休日

読む前に

1. 「祝日・休日」のことを隣の人と話し合ってみましょう。
2. 2005年4月まで、国民の祝日・休日は計いくつありますか。
3. 成人の日はいつですか。
4. 体育の日はいつですか。

しゅくじつ さだ しゅくさいじつ いっぱう
祝日とは政府が定めた「日本国民の祝祭日」のことで。一方
きゅうじつ ぎょうむ えいぎょう
休日とは、業務・営業・授業などを休む日のことです。前者が一
ぎょうじ たい こじん
年の行事としてあらかじめ決められているのに対し、後者は個人が
じゅう
「お店を休む日」など自由に決めることができます。1999年には休日
ほう かいせい せいど せいてい
法の改正によって、ハッピーマンデー制度が制定されました。これ
れんぞく
により、土・日・月と休日を連続させるために、いくつかの祝日が月
いこう
曜日に移行しました。

2005年4月現在、国民の祝日・休日は計15日あります。

がんじつ せいじん けんこくねん
「元日(1月1日)・成人の日(1月第二月曜)・建国記念の日(2月
しゅんぶん していひ けんぽう
11日)・春分の日(3月の指定日)・みどりの日(4月29日)・憲法記
念日(5月3日)・国民の休日(5月4日)・こどもの日(5月5日)・海の
けいろう しゅうぶん
日(7月第三月曜)・敬老の日(9月第三月曜)・秋分の日(9月の指定
ぶんか きんろうかんしゃ
日)・体育の日(10月の第二月曜)・文化の日(11月3日)・勤労感謝の
てんのうたんじょうび みな
日(11月23日)・天皇誕生日(12月23日)」です。皆さんはいくつ

知っていましたか？

言葉と表現

1 ハッピーマンデー

幸せな月曜日

2 カテゴリ

範疇(はんちゅう)

一 元日

読む前に

1. 「元」という字にはどんな意味がありますか。
2. 「旦」という字にはどんな意味がありますか。
3. どうして門松を門の前に飾ったり、鏡餅を備えたりしますか。
4. 古来大晦日の夜は、人々は一晩中起きている事が多かったようです。それはどうしてですか。
5. 元日から2日にかけてみる夢のことをなんといいますか。

こらい さいしよ
古来より1年の最初の日である1月1日「元日」は、全てのものに
いのち としがみさま とくべつ
命を与えてくれる“歳神様”をおまつりするための特別な行事が行
われていました。1948年に「年のはじめを祝う日」として法律で国民
とし いわ ひ ほうりつ こくみん
の祝日と制定されました。

①一年の始まりの日

「元日」は1月1日のこと、そして「元旦」^{がんとん}というのは1月1日の
朝の事です。「元」という字には「一番初め」^{いちばんはじ}という意味があり「旦」
という字には「あした(朝)」^{よあ}「夜明け」という意味があります。

おこな ふうしゅう げんざい う つ
古来から行われてきた元日の風習は、現在でも受け継がれてい
ます。今でも私達は歳神様^{むか}をお迎えするために門松を門の前に飾った^{もん かざ}

かがみもち そな ぜんじつ じゅんぴ
り、鏡餅を備えたり、前日に準備したおせち料理を食べたりして
います。また、子供は親や親戚からお年玉おや しんせき としだまをもらいます。

②元日の行事の移り変わり

おおみそか しつれい
古来大晦日の夜は、歳神様を迎えるために寝ていては失礼だとい
ことひとびと いちばんじゅうで、人々は一晩中起きていた事が多かったようです。そのため、
よくじつ かてい ねしょうがつ す
翌日(元日)はほとんどの家庭が「寝正月」で過ごしました。

えどじだい きてい りょうしゅ もう
江戸時代に入ると、正月休みの規定が領主ごとに設けられるよう
になりました。庶民しよみんはそれまで正月しょうがつ(1月1日)・お盆ぼん・祭礼さいれいの
日しか休みがありませんでしたが、この頃ごろから1月1日から3日までの
3日間、休みが取れるようになりました。これが今で言う「三が日」です。
と さん にち

また、元旦(正月の朝)一番いど くに井戸から汲んだ水を「若水わかみず」といい、
歳神様から頂いただいた大切な水として頂く習慣がありましたが、水道すいどうの
ふきゅう とも すいたい
普及と供にその習慣は衰退していきました。

現在も正月の風習は受け継がれていますが、プラスチック製の門松せい
や鏡餅しょうを使用したり、おせちをデパートで購入するなど簡略化さ
けいこう つよ
れる傾向が強まっています。

③元日の夜の楽しみ「初夢」

ゆめ はつゆめ もっと
元日から2日にかけてみる夢のことを「初夢」といいます。最も
いちふ じに たかさな すび するが しずおかけんへん
よい夢は、「一富士二鷹三茄子」である、と駿河(現在の静岡県)
の国のことわざにあります。富士山は日本で一番高い山、鷹は足高山
あいたかやま
(愛鷹山)のことで、これは駿河で二番目に高い山です。また、茄子
おどろ たかね みつ
は正月になると驚くほどの高値で売られていました。これら3つに
きょうつう
共通して言えるのは、全て「高い」という言葉が入っていることで

す。この言葉は縁起えんぎが良いとされていました。

その他にも、縁起えんぎの良い夢をみるためには「宝船たからぶね」の絵を枕えの下まくらにじっせんいれて寝ると良いなどと言われています。ぜひ実践してみてくださいがでしょうか。

言葉と表現

1 歳神（としがみ）

正月に家々に迎えて祭る神。豊作の守り神であり、祖霊であるともいわれる。

2 鏡餅（かがみもち）

平たく円形に作った餅。大小2個をひと重ねにし、正月や祝いのとき、神仏に供える。

3 備える（そなえる）

ある事態が起こったときにうろたえないように、また、これから先に起こる事態に対応できるように準備しておく。心構えをしておく。

「万一に一・える」

「地震に一・える」

「試験に一・えて夜遅くまで勉強する」

4 おせち料理

節（せち）の日に特に作る料理やお供えの餅（もち）。節供（せちく）。

5 年玉（としだま）

新年を祝って人に贈る物。また、子供や奉公人・出入りの者に与える金品をいう。

6 大晦日（おおみそか）

一年の最後の日。一二月三一日。

7 設ける（もうける）

① 前もって用意・準備をする。

「一席一・ける」

「機会を設けて二人を会わせよう。」

②建物・機関などを、こしらえる。設置する。

「窓口を一・ける」

「規則を一・ける」

「事務所を一・ける」

8 井戸（いど）

地下深く掘り、地下水を汲みあげるようにしたもの。

「一が涸（か）れる」

「掘り抜き一」

9 汲む（くむ）

器物や手のひらなどを使って、水などをすくい取る。また、ポンプなどの機械によって水などを容器に移し入れる。

「井戸水を一・む」

「釜から茶柄杓（びしゃく）で湯を一・む」

10 プラスチック

熱や圧力などによって可塑性を示し、任意の形に加工・成型できる高分子物質の総称。天然樹脂と合成樹脂とがあるが、ふつう後者をさし、塩化ビニル樹脂・アクリル樹脂などの熱可塑性樹脂と、フェノール樹脂・尿素樹脂などの熱硬化性樹脂とに大別される。可塑性物質。

11 初夢（はつゆめ）

新年最初に見る夢。ふつう元日または2日の夜に見る夢をいう。古くは、節分の夜に見る夢をいった。

12 縁起（えんぎ）

吉凶の前触れ。兆し。前兆。

「一がよい」

「一の悪い話だけれども昨日はからすが家の上をしきりに飛んでいた」

二 成人の日

読む前に

1. 「成人の日」はいつでしょうか。

2. その制定の趣旨は何でしょうか。隣の人と話し合ってみましょう。
3. 成人を祝う風習を歴史的に述べなさい。
4. 現在では成人式を迎えることよりも、どんな傾向が強く感じられますか。

成人の日は、1948年に「1月15日は、おとなになったことを自覚し、
 自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます日」と法律で定められま
 した。現在は、2000年に制定されたハッピーマンデー法に基づき1
 月の第2月曜日に改正されています。

①成人式の存在意義

成人の日は、新成人達が両親や周りの大人達に保護されてきた子
 供時代を終え、自立し、大人の社会へ仲間入りすることを自覚するた
 めの儀式（成人式）を行う日です。

各地方自治体で成人の日に行われる成人式では、女性は振袖、男
 性はスーツや羽織袴などの正装に身を包み、市長などから祝
 福の言葉を贈られます。しかし近年、成人式で一部の新成人が野次を飛
 ばす等トラブルを引き起こす場面が多く見られます。現在の法律では
 20歳という年齢をもって成人したものとみなし、飲酒、喫煙、投票
 などが許されますが、このような非常識な行為を見るにつれ、現在
 では成人式を迎えることよりも、社会人になることの方が一人前にな
 る、大人になると意識される傾向が強く感じられます。

②古来の儀式

成人を祝う風習は古来から存在していました。男子は、髪を結い冠
 または烏帽子をつけ、服装を改め成人したことを周囲に示しまし
 た。また、幼名から烏帽子名に改名する風習も盛んでした。女子の
 場合は“裳”という腰から下にまとう衣服を身に付ける裳着、髪を結

あ かみあげ そ かね ぎれい
い上げ髪上、歯を黒く染める鉄漿付けを成人の儀礼としました。

きぞく い かくち むらむら
一方貴族のように位の高い人々のみにとどまらず、各地の村々でも
むらびと さだ
村人たちが定めた成人の儀式が行われていました。しかしそれは、現
いってい こ きじゅん
在のようにある一定の年齢(20歳)を越えれば成人といった年齢基準
たと しば か う ある
ではなく、例えば「1日に60キロの柴を刈って12キロ売り歩いたら
かんけい こうい でき
一人前の男である」など、年齢に関係なくその行為が出来れば成人と
みと せいじょしき
して認めるといったものでした。これらの儀式は成年式・成女式など
よ めいじいこういちぶ ちいき のぞ すいたい
と呼ばれていましたが、明治以降一部の地域を除き、衰退してゆき
ました。

だんし へいえき ぎむ か
明治以降になると、男子は兵役につく義務を課せられました。兵役
ちょうへいけんさ う ひつよう
につくためには徴兵検査を受ける必要があり、この徴兵検査が成人
せんご
式の意味をもち、成人式制定のきっかけとなりました。戦後、兵役の
かん
義務がなくなり、1948年の“国民の祝日に関する法律”によって「成
人の日」は正式な祝日と定められました。

③成人の日に込められた想い

現在成人の日は1月の第2月曜と制定されています。全国で地域ごと
さ じょうじゅん ちゅうじゅん
に差はあるものの、毎年1月の上旬から中旬にかけて成人式が
行われています。

なぜ
しかしおめでたい事とはいえ、何故成人の日を祝日にしたのでしょう
いっせつ ぶっし しよくりょう た とぼ
か。一説によると、戦後物資も食料も足りない時代で一番乏しい
じんざい こっか
とされていたのは「人材」でした。良い「国家」を作っていくために
じしん せいちょう やくにん
は、国民自身が成長していかななくてはならないと考えた当時の役人
ねが
たちは、「こどもから大人になった自覚を持ってほしい」と願ってこ
せんじん
この日を祝日にしたそうです。このように成人の日に込められた先人の
だいいっぱ
想いを知ることが、成人になる第一歩なのではないでしょうか。

言葉と表現

1 自ら（みずから）

〔副〕ほかの人の力に頼らないで自分の力で行うさま。手ずから。自分で。

「—あやまちを認める」

「—命を絶つ」

「—進んでそれをした」

「—彼に話した」

2 励ます（はげます）

気持ちや奮いたつようにしてやる。元気づける。力づける。激励する。

「病床の友を—す」

「研究を続けるよう彼を—ました」

「君が来てくれれば病人は—まされると思う」

3 仲間入り（なかまいり）

仲間に加わること。

「社会人に—する」

4 振袖（ふりそで）

丈の長い袖。また、その袖のついた、未婚女性の礼装用長着。

5 スーツ

共布（ともぎれ）で仕立てたひとそろいの洋服。男子服では背広の上下、またはチョッキを加えたひとそろい、婦人服ではスカートと上着、または共布のブラウスを加えたひとそろいなど。

6 羽織り袴（はおりはかま）

羽織りは着物の上に着る、たけが短くて襟に折返しのある和服のことだ。

袴は着物を着た上からつけて、腰から下を覆う緩やかな衣服。ひもで腰に結び留める。行灯（あんどん）袴、馬乗（うまのり）袴、近世に礼服として用いられた長袴など種類が多い。「—をつける」羽織り袴は紋付の羽織りと袴をつける正式の和服。

7 正装（せいそう）

儀式などに出るための正式の装い。また、その装いをすること。

8 野次（やじ）

他人の言動に、大声で非難やひやかしの言葉を浴びせかける。

「らは講演者に一を飛ばした」

「があまりひどくて演説が聞こえなかった」

「国会でははげしい一の応酬があった」

「一を飛ばす。（大声でやじること。盛んにやじること）」

9 トラブル

もめごと。いざこざ。紛争。

「金銭上の一を起こす」

「あの人はいつも一を起こす〔に巻き込まれる〕」

「あの家庭はト一が絶えない」

10 一人前（いちにんまえ）

成人であること。また、成人の資格・能力があること。ひとりまえ。

「一のことを言う」「一に扱う」。

11 結う（ゆう）

①縄やひもなどで縛る。むすぶ。

「帯を一・う」

②髪を整えて結ぶ。

12 烏帽子（えぼし）

元服した男子のかぶり物の一。古代の圭冠（けいかん）の変化したもの。もと平絹や紗（しゃ）などで袋形に作り、薄く漆を引いて張りをもたせたが、平安末より紙を漆で固く塗り固めて作った。貴族は平常用として、庶民は晴れの場合に用いた。階級・年齢などの別によって形と塗りを異にするようになり、立（たて）烏帽子・風折（かざおり）烏帽子・侍烏帽子・引立（ひきたて）烏帽子・揉（もみ）烏帽子などの区別が生じた。

13 裳（も）

古代、腰から下にまとった衣服の総称。

14 まとう

身につける。着る。

「ドレスを身に一・う」